

FWI ~Feel Weather Interface~

エントリー番号：9
チーム名：シメカン



◆要旨◆「今よりも見づらいインターフェース」

今までのインターフェースデザインで行われているアプローチは、より見やすく、より簡潔に情報を伝えようとする。今回は全く逆のアプローチで新たなインターフェースを提案する。見づらくすることで新たな情報を伝えることができるようになる。

◆ インターフェースデザインの背景 ◆

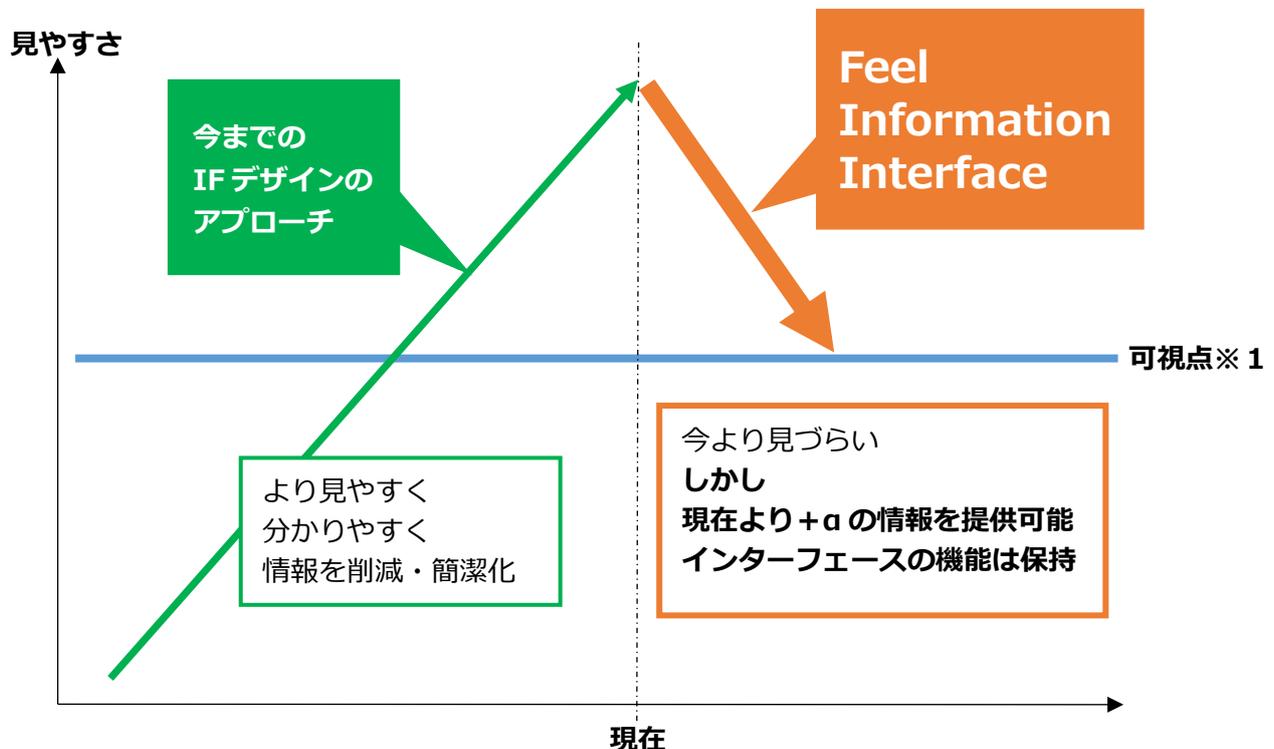
今までインターフェースデザインにおいて行われてきたのは情報をより見やすく、より伝わりやすいようにすることである。これによってインターフェースの可視性は向上し、今現在ではとても見やすいインターフェースが確立された。

◆ 見やす過ぎるインターフェース ◆

インターフェースデザインによってとても見やすく理解しやすい画面へとなった。そして現在のインターフェースでは基本機能として必要な可視性以上の見やすさがあると考えられる。この可視性以上の見やすさはインターフェースに情報を表現するための余裕が残っているということである。

◆ Feel Information Interface(FII)について ◆

Feel Information Interface は今までとは全くの逆を行くインターフェースである。今よりも見づらく、可視性を下げる。しかし、見づらくすることで今まで表現できなかった新しい情報を提供することのできるインターフェースである。



※1 情報が認知可能になる点

◆目的◆

[インターフェースに新しい情報を付加する]

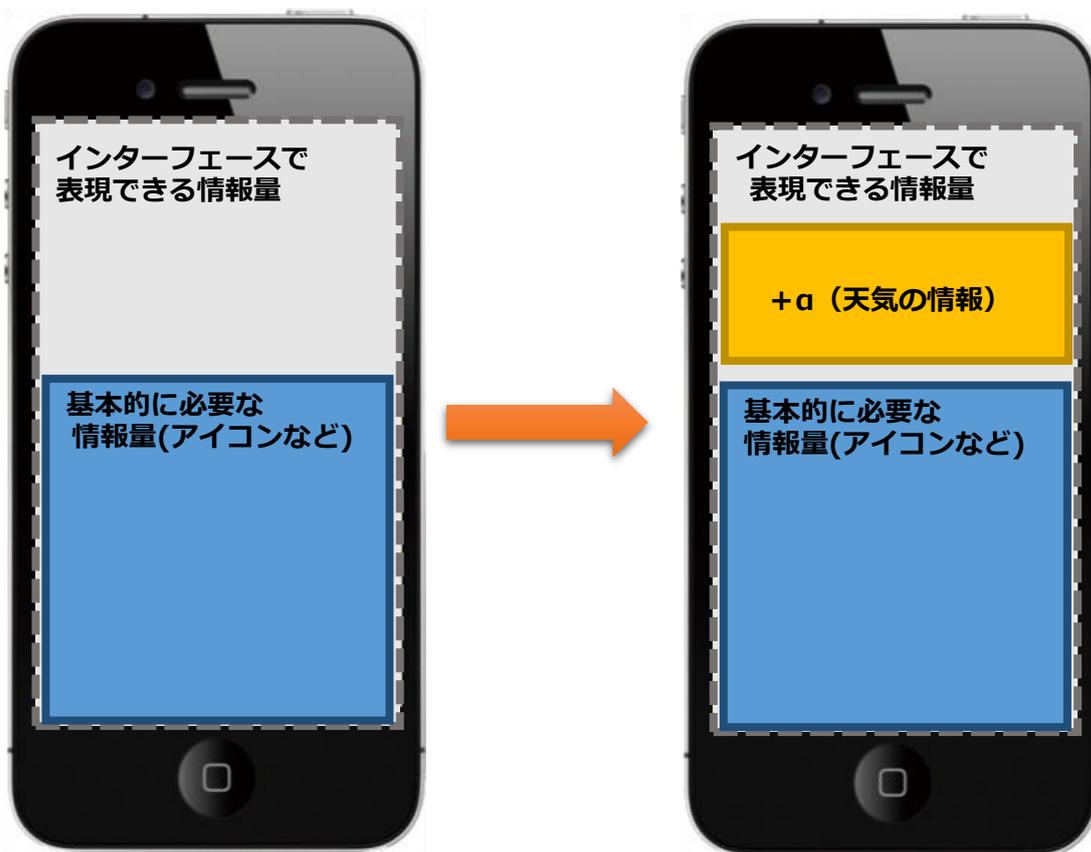
新しい情報を提供できるようなインターフェースを提案する。可視性は下がるが、インターフェースとしての機能は保持し、ユーザーがより直感的に情報を受け取ることのできるインターフェースを提案する。

◆FWI ~Feel Weather Interface~◆

FWI は FII の一つとして天気をインターフェースで直感的に感じられるようにしたインターフェースである。

なぜ天気なのか？

突発的に知りたい状況が多く、PCなどの画面を見ている時は室内であることが多いため、天気の情報や予報などによる数値的なデータとしてではなく直感的に理解できるような方法があれば良いと考えたためである。



現在のインターフェース

Feel Weather Interface

◆機能説明◆

天気情報を数字ではない方法でインターフェースに表現する。
今のインターフェースの基本機能は邪魔しない画面の輝度，ぼかし，簡単なアニメーションのレイヤーを用いて表現する。

- | | |
|------------|------------------------|
| 降雨量 | : 降雨量に比例した降雨映像を画面にうつす. |
| 風量 | : 風量に応じて画面をなびかせる. |
| 雲量 | : 雲量に比例して画面を曇らせる. |
| 日射量 | : 画面のしろ飛びの濃さで日射量を表現する. |
| 気温 | : 画面背景の色 |

天気情報の可視化手法一覧



普通のインターフェース



Feel Weather Interface

◆ 基本機能との共存 ◆

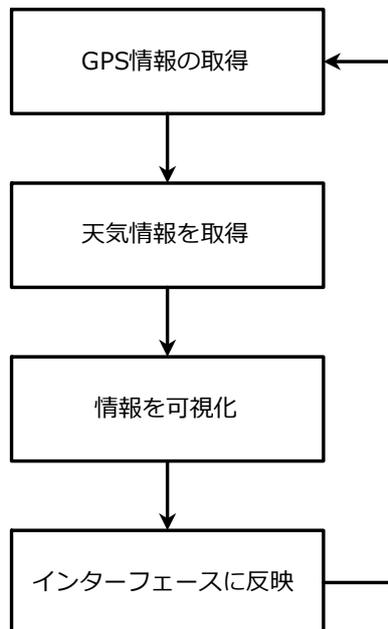
インターフェースの基本の機能で求められる情報表現は、文字やアイコンの形、配置による認知的な部分に頼る部分が多い。Feel Weather Interface では天気の情報に文字やアイコンなどではなく天気と結びつく半透明画像やアニメーションで表現する。それらを既存のインターフェースにレイヤーのように重ね合わせるにより基本機能に必要な文字やアイコンの認識には影響を及ぼすことなく新たに天気の情報を知覚可能になる。

◆ システムの概要 ◆

Feel Weather Interface のシステムの概要を説明する。

- ① GPS から現在地の情報を取得
- ② GPS の位置情報から現在の場所の天気情報を取得
- ③ 天気情報を可視化手法に基づいてインターフェースで表現
- ④ 単位時間ごとに繰り返し実行

システムのフローチャートを以下に示す。



◆今後の展開◆

Feel Information Interface という概念を元に天気以外の情報もインターフェイスで表現していく。以下にその例を挙げていく。

◆Feel MUSIC Interface◆

音楽に連動してインターフェイスが能動的に変化する。
激しい曲なら画面も激しく、優しい曲なら画面も優しく、
聴覚だけでなく視覚でも音楽を楽しめることができるようになる。
自分の好きな音楽で画面をカスタマイズするエンタテインメント性のある
インターフェイスになる。

◆Feel Health Interface◆

今流行の IoT を取り入れる。様々なヘルスケア機器と連動し自分の健康状態をインターフェイスに反映してくるものである。自分の健康状態を直感的に理解できる。またデスクワークの多い職業の人などは特に仕事のし過ぎによる疲労などを画面で感じ取れる。また市民ランナーやマラソン選手などが自分のフィジカル状態を簡単に理解できるインターフェイスである。

◆まとめ◆

インターフェイスを綺麗で美しいものではなく、
今よりも見づらくすることで +α の情報を提供することができる。
Feel Weather Interface によって天気という情報を直感的に感じる新しい
インターフェイスとしての可能性が証明されるのではないだろうか。

見やすいデザインをするのではなく見づらいデザインをするという
新しいインターフェイスデザインの時代の幕開けである。